

安来市 SAN-IN (さんいん) やすぎオオサンショウウオの会

安来発オオサンショウウオ個体登録推進活動

活動目的

国指定特別天然記念物であるオオサンショウウオの保護管理・生息環境保全対策上必要な基礎資料を整備する。



活動内容

- ①生息調査・観察会（兼 個体登録技術講習会）の開催
- ②フィールド調査区間における河道内の草刈及び不法投棄物回収等による生息環境保全の実行
- ③人工巣穴堆積土砂除去による生息環境改善の取組
- ④子ども向け新聞における活動記事掲載や小学校での出張講話を通じた普及啓発活動



成果

- ・令和2年におけるマイクロチップを用いた標識個体数は36頭で、県内第一位を記録した。
- ・安来市広瀬町西谷で天然の繁殖巣穴を発見した。同市での発見は44年ぶりで、県内でも極めて少ない事例として新聞報道された。
- ・全国的な個体登録方法の統一に寄与するとともに、国内における個体情報の共有化に必要なデータベースの基礎が構築された。

松江市 ミホツ姫命稲穂の会

美保関で遊ぼう！ ～地域の自然環境から学ぶ体験教室～



活動目的

美保関は四季折々の魅力的な風景に彩られるが、子どもたちが豊かな自然とふれあう機会は減少した。自然の仕組みと保全に関心を深め、次世代を担う子どもたちが自然とふれあう体験や学びをとおして恵み豊かな美保関の保全に取り組む。

活動内容

子どもたちが安全に自然観察会を行うために地域の方と協力して里山を整備した。観察会はネイチャーゲームを通して楽しく自然とふれあい学ぶことができた。

- ①みどり山：夏の里山を遊びつくせ！～セミ博士になろう～
セミの抜け殻からどんな種類が生息しているか調べた。また、西日本と東日本では種類が異なることや地球温暖化で生息地が変化していることを学んだ。
- ②久具谷山：小さな生きものたちに会える旅
久具谷山にいる生き物と同じ種類でも、地域によって外見や特徴が異なることをサンプルでみせてもらい、驚いた様子で観察していた。



成果

観察会でサンショウウオなど希少な生物が生息していることがわかると、子どもや大人までもが夢中になり、あらためて地域の恵まれた自然の魅力を感じていた。このあふれる自然を保全し、次世代にも引き継ごうとスタッフの意識も高まった。

出雲市 特定非営利活動法人 いずも朱鷺21

トキの野生復帰を通じた農業者を対象とした普及啓発活動

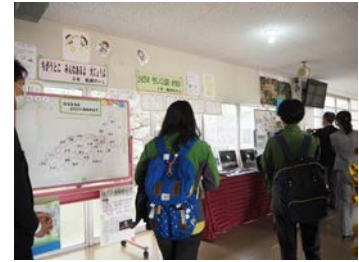


活動目的

出雲市が分散飼育と一般公開をおこなっているトキを、将来的に出雲地域で野生復帰を実現させるためには、採食地である水田での多様な生きものを育む取り組みが欠かせない。そこで、農業者等を対象とした学習会や現地視察を実施し、トキと共存する環境保全型農業の実践者や賛同者の増加を図る。

活動内容

活動実践者による「トキを生かす・活かす農業のおはなし」として、農業従事者や行政など80名を対象に、①トキと共存する農業の意義 ②徳島県におけるコウノトリの野生復帰に向けた取り組み ③佐渡におけるトキと共存する農業の実践事例の講演のほか、意見交換会、トキ公開施設の見学をおこなった。また、雲南市立西小学校の環境教育の取り組みやコウノトリの人工巣塔を視察した。



成果

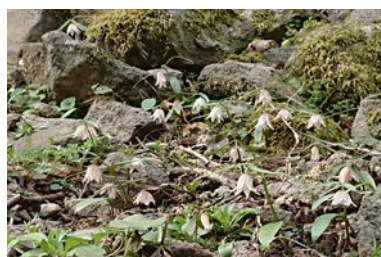
講演会のようなすはテレビ・新聞で報道され、広く一般にも考えるきっかけを提供できた。アンケートでは92%が「とても参考になった」と答え、生きものにやさしい農業の普及には勉強会やボランティア支援などが効果的で、45%が「実施予定」「検討中」とした。また、講演で使用された映像資料を雲南市の団体に提供するなど地域を越えた活動の連携にも繋がった。

出雲市 発見地反辺のイズモコバイモを守る会

発見地周辺に自生するイズモコバイモ群生地の保全活動及び啓発活動

活動目的

イズモコバイモの発見地である佐田町反辺地区に自生する群生地を保全するとともに、絶滅危惧種である本種の希少性・貴重性を地域住民をはじめ広く県民に啓発し、地域の宝として後世に引き継いでいく。



活動内容

- 自生地の整備
令和2年11月8日などに会員とボランティアによる自生地の整備を行った。今年度は、これまで不便であったアプローチを改善するための歩道新設や斜面中腹部に新たな観察歩道等を整備した。
- 一般公開
令和3年3月13~14日、3月20日から21日の4日間一般公開を行い、イズモコバイモの華やかな姿を堪能してもらった。来訪者は約600人であった。



成果

アプローチ歩道を整備したことにより、体の不自由な人たちにも現地を観察してもらいやすくなった。また、「コバイモ類の分布」を作成し配布したことにより、全国に8種あるコバイモ類の分布状況や、島根県固有種であるイズモコバイモの価値などが理解されやすくなった。この他、地元住民への理解が広がり、協力が得られるようになった。

鹿足郡 NPO法人 ミライノタネ

地域の川をもっと知ろう、地域の川でもっと遊ぼう！！



活動内容

対岸に渡したロープにイカダを付けてうつ伏せに乗ると流されることなく、川底の色々な生き物がどんなふうに過ごしているのかなど、じっくりと観察することができた。

鮎のつかみ取りやウナギの仕掛けでは、素早い動きに戸惑いながらも必死に追いかけて、初めてさわうウナギの感触に驚いたり、さまざまな体験をすることができた。



活動目的

子どもたちがさまざまな川遊びの体験や学習を通して地域の川を学び親しめる場所に復活させるために、住民と協力して川原を整備することで、清流高津川という地域の宝や自然の恵みを子どもや地域の方が実感し、豊かな自然環境を守るこの大切さを伝えていく。

成果

「今年もまた子どもたちの活動があるのかな」と、地域の方に関心を持ってもらえるようになり「鮎の友釣りの経験をさせてはどうか」などの要望も出されるようになった。協力体制が高校生や大学生などの若者にも広がり高津川での活動が定着してきた。子どもや大人も川に入って自然を身近に感じ、その恵みを知る機会を継続することで豊かな地域の自然環境を守りたいという意識が高まってきた。

大田市 長久竹の子族

長久町内の竹林整備による里山作り

活動目的

長久地区は放置竹林の拡大により生態系は単純化し、景観を含めた里山管理の障害になり荒廃を招いている。住民が連携して竹林の整備を進め、竹資源を有効に活用するメンマや竹チップ等の商品化を目指し、里山を継続的に管理する。



活動内容

竹林整備：放置竹林の整備を10回おこなった。整備された竹林では上質なメンマ原料となる若竹が収穫できるので、これを収入につなげることで持続的に竹林を整備することができる。

講演会：「竹を活かす」をテーマにした講演会では、やっかいものと言われる竹の可能性は無限大で竹チップやパウダーなどの資源として活用できることや、竹林を整備することは景観、防災、獣害などの観点からも多くのメリットがあることを学んだ。

成果



イノシシやタヌキの住処、また不法投棄の温床になっていた放置竹林の整備を進めると、明るく陽が射すようになり山の管理も容易になった。切り出した竹材で竹細工教室の開催や竹チップ、メンマなどの商品化にも取り組み、試験的に販売も行い好評を得た。これまで邪魔者扱いされて竹だが専門家による講演会も実施し「資源として価値あるもの」として地域の住民に認識されてきた。

多用な植生を有する湿地保全の理解促進活動



活動目的

適度な人手が加えられることで残されてきた里山の自然を維持するために、湿地での自然観察会とおして自然の豊かさを学び、貴重な湿地を地域資源として次世代へ継承するために地元住民が保全のための整備を行う。

活動内容



7月の観察会は29名が参加。淀原湿地の20年間の変化を桑原講師から講義を受けた後、現地に移動し観察会を実施した。植林の成長で日照時間が少なくなると野草が減少することや、周辺には希少な昆虫も生息しているという説明を受けた。

9月の観察会は19名が参加。淀原湿地と通称「秋草の丘」で秋の草花を観察した。日常的に環境を整備することでオミナエシなどの野草が保全されることがわかった。

12月には自治会員で湿地保全のための作業を行った。

成 果

地域住民への理解と協力を得たことで、地域として子どもたちと自然を近づけることへの意識や関心が高まり、今後の活動に期待をしてもらえるようになった。除草作業や土砂の除去など整備したことでイベントの時以外でも訪れた人が過ごしやすい環境になり、複数の来訪者から「子どもが遊びやすくていい」という声をいただいた。漁師さんやイベントに関わった方々も、子どもたちが喜ぶ姿を見て誇りを感じることができ、この事業の意義を理解してもらうことができた。

